



1 震災・学校支援チームとは

震災・学校支援チーム（EARTH）は、阪神・淡路大震災時に受けた全国各地からの支援に報いるため、災害等により避難所となった学校の支援活動等を行う教職員の組織として2000年4月に発足しました。現在、166名の教職員が活動しており、災害時には学校の避難所開設・運営、学校の早期再開、児童生徒の心のケア等を行い、平常時には、被災地への派遣活動の経験等を生かして、県外の学校等への講師活動、県内では、学校と地域を結ぶ活動等の防災教育の推進、そして、海外への支援活動を行っています。

2 設立のとき

阪神・淡路大震災以後、兵庫県では教育復興担当教員を各校に設置し、子どもたちの心のケアや学校教育の復興へ力を注ぎました。また、防災教育や避難所運営等に関する専門的知識や実践的対応能力を備えた防災教育推進指導員の育成に着手しました。



2000年4月震災・学校支援チーム結成

その最中、1999年にトルコ地震や台湾地震が発生しました。教育復興担当教員等が現地への支援活動に赴いたことを契機として、阪神・淡路大震災を経験した本県の教職員で、避難所となる学校の支援等を行うチームの設置を求める機運が高まりました。

設立当初は、防災教育推進指導員や教育復興

担当教員等、避難所運営に関わった90名の教職員と5名のカウンセラーで組織され、支援活動を開始しました。

3 阪神・淡路大震災の教訓

阪神・淡路大震災では、避難所指定の有無に関わらず多くの学校が避難所となり、公立学校では約18万人の避難者を受け入れ大混乱となりました。こうした中で教職員は、学校の避難所運営や支援活動等を積極的に行いました。



阪神・淡路大震災時の避難所（学校）

また、阪神・淡路大震災の2年後には、心の健康について教育的配慮を必要とする児童生徒数が4,106名とピークになりました。その教訓として、災害発生時に避難所となる学校では、①避難所開設と運営、②学校の早期再開への取組、③児童生徒の心のケアが必要なことがあげられます。

適切な避難所運営によって早期に学校を再開できれば、児童生徒のストレスや不安を減少させることができます。

4 県内外及び海外への支援活動

震災・学校支援チーム（EARTH）は、派遣要請があれば避難所となった学校の支援等を行います。県内外・海外を問わず支援活動を展開しています。

教職員のチームであるため、派遣期間中は、

所属校の先生方が授業等のカバーを行う等、学校全体の理解がないと派遣活動は実施できませんが、県内外や海外での支援活動等で得た経験や知見を、所属校や地域等への防災体制の充実につなげています。

【派遣実績（県外）】

北海道有珠山噴火（2000年4月）
鳥取県西部地震（2000年10月）
宮城県北部連続地震（2003年7月）
新潟県中越地震（2004年10月・11月）
東日本大震災（2011年3月～）

【派遣実績（県内）】

台風23号但馬の水害（2004年10月）
台風9号佐用町水害（2009年8月）
平成26年8月豪雨災害（2014年8月）

【派遣実績（海外）】

スマトラ島沖地震（2005年）
四川大地震（2009年～2016年）
トルコ共和国（2011年、2013年）
フィリピン共和国（2015年～）

5 訓練・研修

阪神・淡路大震災から22年が経過し、震災等の経験のない教職員が増加していることから、専門的な知識や実践的能力を育成するために、毎年、2回の訓練・研修会を実施しています。また、震災・学校支援チーム（EARTH）に加入するために、防災等に係るカリキュラムのもと構成した、防災教育推進指導員講座（初級・中級・上級）を2年以上に渡って受講していただいています。



地域住民へのワークショップの様子

6 派遣活動から

阪神・淡路大震災以降、これまでに多くの災

害が発生しました。都道府県、各市区町村、各学校で災害対応マニュアルが作られ、その対応に生かされているはずですが、平成28年熊本地震においても学校は大混乱となっており、災害に対する今までの経験や教訓が十分に生かされているとはいえない状況でした。

7 EARTHハンドブック

災害時の学校支援を円滑に行うため、「EARTHハンドブック」を作成しています。平時にあっても常に身近において防災に関するバイブルとして活用しています。平成28年熊本地震では、震災・学校支援チーム（EARTH）は、発災直後から避難所となっている学校に支援活動を展開するとともに「EARTHハンドブック」を約203校の学校等に配布し、大いに活用されました。

8 内閣総理大臣及び総務大臣賞受賞

県内外及び海外の支援活動が評価され、2008年に防災功労者内閣総理大臣賞及び総務大臣賞を受賞しています。

9 終わりに

いつ、どこで、災害が発生するか予想が困難な中、児童生徒への防災教育が重要であるとともに、災害時に避難所となる学校への支援や災害への備えは必須です。

南海トラフ巨大地震に「備える」観点からも全国への支援・講演活動や防災教育を推進するとともに、EARTH員の継続的なスキルアップを行っていきます。

また、震災・学校支援チーム（EARTH）は全国で唯一の教職員の組織です。今後は、他府県の先生方との連携・協力しての支援活動等が可能となれば、これまでの経験・知識の共有や災害時に相互に協力し、助け合うことができ、防災教育についてもさらに推進することが可能となります。災害が多く発生する中、震災・学校支援チーム（EARTH）が持つ経験、知識及び支援活動等が全国に広まることを願っています。